

■第5回牧野植物園磨き上げ整備基本構想検討委員会検討事項

基本コンセプト

案①	世界のMAKINOでいのちを見つめる ～MAKINO Botanical Garden in Godaisan～
案②	世界のMAKINOを受け継ぎ、植物と生きる Live with Plants in MAKINO
案③	世界のMAKINOで植物と共生する Live with Plants in MAKINO
案④	植物の価値を高め、世界に輝くMAKINOを目指す MAKINO increases plant value
委員	基本コンセプトについて
A委員	コンセプトのタイトルが真面目すぎる(文字に書かれていることにとらわれて、飛躍がない)キャッチフレーズとして、 Inspire with MAKINO (MAKINOでひらめく) (ひらめくMAKINO) Excite with MAKINO (MAKINOでときめく) (ときめくMAKINO) ・ただし、科研費による最先端の研究成果に小学5年生から高校生が直に見る、聞く、触れることで科学のおもしろさを感じてもらうための学術振興会の支援プログラム「ひらめき と きめき サイエンス」に似ている。 ・高知大学の先生も「ひらめく・ときめく土佐の環境教育」をやっている M・A・K・I・N・Oにひとつずつ単語を割り振って全体で意味のあるストーリーにできると最高(後半はInspiration, Novelty, Originalityとか)
B委員	②の「植物と生きる」がしっかり来る…このフレーズを是非入れていただきたい副題として①の「世界のMAKINOでいのちを見つめる」を入れてはどうか …世界のMAKINOは植物に、いのちは生きるに意味がつながる …いのちを取り巻く環境として、五台山全体、竹林寺のイメージにも近づく 英語表現 ①は直接的に入っていない ②はLiveなのか、しっかり来ない Inspireという言葉も良い。 Inspire with plant in MAKINO
C委員	②が良い。(消去法) ④は大げさ、大風呂敷 ③の共生は生物多様性にもつながるが ②が言葉としてやわらかく、分かりやすい 全体に平板になり、特色を出すなら①も面白い(五台山というエリア、観光面で)が、植物園が県立施設ということも考慮しなければならない
D委員	①が良い。 竹林寺、五台山公園との連携がなくてはこれ以上の集客増は困難 県民の憩いの場として、また世界の牧野であることをまず県民の皆さんに知っていただく、一度は来園してもらう等地道な取組が必要
E委員	②が良い。 ①か②だが、②がしっかりくる ②と③で比べると②が分かりやすい ④は仰々しい ②は、単なる観光施設でなく、牧野博士の精神を受け継ぎ、ということが分かってよい
F委員	①が良い。
G委員	折衷案(どれも一長一短でイマイチのため、次のとおり①～④の良いところを取った) 霊場でもある五台山で 世界のMAKINOといのちを見つめる ～MAKINO Botanical Garden in Godaisan Hill～ 牧野植物園の役割、現状と課題を踏まえ、今後の磨き上げの方向としての基本コンセプトを上記のとおり定めました。 牧野植物園は、生涯を植物の研究と啓蒙活動に捧げた世界的植物学者の牧野富太郎博士(MAKINO)を顕彰する施設です。その遺志を継ぎ、植物を知ることの大切さと楽しさを広く伝えることが、園活動の第一の指針となります。その一方で、牧野植物園は五台山に位置し、四国八十八箇所霊場第31番札所である竹林寺と隣接します。多くの県民や観光客が多様な植物に囲まれて、「いのち」についてもじっくり考えることができる憩いの場を提供すること(観光振興への貢献)、また研究活動により植物の多様性と有用性を明らかにしていくこと(研究、産業への貢献)、さらには、園内の貴重な植物に触れ、調べ、学ぶ場を提供することで子どもたちの植物への探求心を育み、第2、第3の牧野博士が育っていくこと(教育への貢献)でMAKINOブランドを構築することを磨き上げの方針とします。 意見:人間が植物と共に生きるというのは違和感がある 野生植物は「人間がいなくても」と言うか、人間がいなくても生存しやすく、人間の存在は邪魔なだけだと思う。その意味では人間が植物と共生するわけではなく、人間は植物に寄生するのみである。
H委員	①が良い。 県民の誇りの拠点→県民の誇りと愛着の拠点(この要素が高まれば観光振興の拠点としての機能も有するようになる。

3. 磨き上げの方針

3.1 基本コンセプト

① 世界の MAKINO でいのちを見つめる ～MAKINO Botanical Garden in Godaisan～

牧野植物園の役割、現状と課題を踏まえ、今後の磨き上げの方向としての基本コンセプトを上記のとおり決めました。

牧野植物園は、四国八十八箇所霊場第31番札所である竹林寺と隣接し、五台山に位置します。牧野富太郎博士（MAKINO）の遺志を受け継ぎ、誰もが植物（いのち）に親しめ、魅力に触れる観光施設が五台山にあることで、多くの県民や観光客に「植物といえば牧野、いのちといえば牧野、五台山」を連想していただくこと（**観光振興への貢献**）、また研究機能を活かして植物（いのち）が人類（いのち）に貢献すること（**研究、産業への貢献**）、さらには、「いのち」に触れ、調べ、学ぶ場を提供することで「いのち」への探求心を育み、第2、第3の牧野博士が育っていくこと（**教育への貢献**）で MAKINO ブランドを構築することを磨き上げの方針とします。

3.2 3つの拠点機能と取組方針

基本構想では、牧野植物園が観光や産業、教育に貢献するために、基本コンセプトのもと、次の3つの拠点機能を発揮するように磨き上げ整備を実施します。

シビック・プライド 県民の誇りの拠点	イノベーション 知の拠点	宝の人材を育成する拠点
子どもたちから高齢者まで県民が郷土の誇りとし、世界の人々にも愛される植物園を目指します。	内知と外知が響き合うオープンイノベーションを構築。未知の価値を創出し、世界に発信する研究型植物園を目指します。	子どもたちが植物に親しみながら探究心を育む教育の場となり、第二、第三の牧野博士を育みます。

○強みを活かした具体的な取組方針

取組方針（課題解決）	整備内容	活かす強み（資源）
新たな憩いの場の創出	（仮称）ファミリー園の整備	五台山の地形 四季折々の多様な植物
美しい園地づくりとバリアフリー	夜間照明、植栽区の整理、バリアフリー園路、サイン	既存植物展示 貴重な植物
集客施設としての展示機能の強化	植物図や標本などのお宝の展示の拡充 ヴァーチャルリアリティ等の映像による植物紹介	牧野博士の植物図・標本 貴重な植物
研究機能の統合による研究の加速化と見える化	（仮称）新研究棟の整備（オープンリサーチセンター）	植物分類学、有用植物学の研究
学習機会の拡充	（仮称）スタディ園の整備	植物の専門知識
南海トラフ地震に備える	圃場の高台移転	貴重な植物、地形
解説機能、インバウンド対策	WI-FIを利用した解説	貴重な植物
来園者の利便性の向上	レストランなどの利便施設の再配置、狭隘道路拡幅、駐車台数の増	五台山の地形を活かした眺望

3. 磨き上げの方針

3.1 基本コンセプト

②

世界の MAKINO を受け継ぎ、 植物と生きる

Live with Plants in MAKINO

牧野植物園の役割、現状と課題を踏まえ、今後の磨き上げの方向としての基本コンセプトを上記のとおり決めました。

牧野植物園は、幼少期から植物に興味を持ち、生涯を植物の研究や啓蒙に捧げた牧野富太郎博士（**MAKINO**）を顕彰する施設です。その遺志を継ぎ、植物を知ることや植物と共生することの大切さを広く伝えること、人間は植物なしでは生きられないという当たり前のことを説得力をもって発信し、感動を与え、植物との共生を実践していくことが、今後の園活動の指針となります。植物の魅力や神秘を伝え、植物に親しめる場所を提供し、多くの県民や観光客に感動を与えられること（**観光振興への貢献**）、また研究活動により植物の有用性を明らかにしていくこと（**研究、産業への貢献**）、さらには、このように貴重な植物に触れ、調べ、学ぶ場を提供することで植物への探求心を育み、第2、第3の牧野博士が育っていくこと（**教育への貢献**）で **MAKINO** ブランドを構築することを磨き上げの方針とします。

3 磨き上げの方針

3.1 基本コンセプト

③

世界の MAKINO で植物と共生する

Live with Plants in MAKINO

牧野植物園の役割、現状と課題を踏まえ、今後の磨き上げの方向としての基本コンセプトを上記のとおり決めました。

牧野植物園は、幼少期から植物に興味を持ち、生涯を植物の研究や啓蒙に捧げた牧野富太郎博士（**MAKINO**）を顕彰する施設です。その遺志を継ぎ、植物を知ることや植物と共生することの大切さを広く伝えること、人間は植物なしでは生きられないという当たり前のことを説得力をもって発信し、感動を与え、植物との共生を実践していくことが、今後の園活動の指針となります。植物の魅力や神秘を伝え、植物に親しめる場所を提供し、多くの県民や観光客に感動を与えられること（**観光振興への貢献**）、また研究活動により植物の有用性を明らかにしていくこと（**研究、産業への貢献**）、さらには、このように貴重な植物に触れ、調べ、学ぶ場を提供することで植物への探求心を育み、第2、第3の牧野博士が育っていくこと（**教育への貢献**）で **MAKINO** ブランドを構築することを磨き上げの方針とします。

3. 磨き上げの方針

3.1 基本コンセプト

④

植物の価値を高め、 世界に輝く MAKINO を目指す MAKINO increases plant value

牧野植物園の役割、現状と課題を踏まえ、今後の磨き上げの方向としての基本コンセプトを上記のとおり決めました。

総合植物園である牧野植物園は、様々な事業活動において植物の魅力や有用性を紹介してきました。これからも、植物園ならではの視点で植物の価値を発信し続け、これまで以上に植物の価値を高めていくことが、園の存在意義にもなり、園の価値を高め、誘客にもつながります。牧野富太郎博士（MAKINO）の遺志を受け継ぎ、植物分類学や豊富な知識に基づく多様かつ系統的な植物の紹介により観賞価値を高め、植物に囲まれた憩いの場で楽しませ（**観光振興への貢献**）、また研究機能の充実により、社会に貢献する植物の有用性を探索すること（**研究、産業への貢献**）、さらには、子どもたちの探求心を醸成する試みにより、第2、第3の牧野博士を育てること（**教育への貢献**）で植物の価値を高める **MAKINO** ブランドを構築することを磨き上げの方針とします。

※ 1 ページ目の 3.2 3つの拠点機能と取組方針 は①～④案共通です。